

旧幼児療育園（本陣跡地横） 有効再利用を要望

宿場町枚方を考える会（以下「本会という）は、以前から枚方市長に要望書を提出してきました。実現した事例もありません。「仮称東海道街道交流館」の設置も要望しました。地域住民や観光客が学び交流できる歴史資料館を兼ねる施設です。しかし、候補地に枚方寝屋川消防組合の本部が設置される結果となりました。

平成30年（2018年）には、本会を含む関係7団体（注）連名で「幼児療育園（三矢町）の廃園に伴う有効再利用について」と題し、伏見隆枚方市長に要望書を提出しました。

これは市立ひらかた子ども発達支援センター（磯島北町）の設置により、同療育園の廃止に伴う要望です。

令和4年（2022年）1月21日に回答があり、同年2月と4月には、更地にして民



旧枚方市立幼児療育園

間に貸し出し、公募による「民設民営」を計画しているとの説明がありました。7団体では、公募要項がまとまり次第、説明を受け、今後の進展を見守ることになっています。

関係7団体

- ◇三矢町町内会
- ◇枚方宿地区まちづくり協議会
- ◇枚方文化観光協会
- ◇宿場町枚方を考える会
- ◇ひらかた市民菊人形の会
- ◇枚方観光ボランティアアイドの会
- ◇一般社団法人枚方宿くらわんか五六市



第94号

発行

宿場町枚方を考える会
会長 上谷 勝己
枚方市船橋本町2-87-7
072-857-2995

編集 広報委員会

主な内容

- 幼児療育園跡地有効再利用を要望（1頁）
- 禁野が軍用地に 火薬庫を設置（2頁〜7頁）
- 枚方行幸史（8頁〜9頁）
- 寝屋川市の史跡を訪ねる（10頁〜12頁）

「禁野」が軍用地に

火薬庫を設置

交野市

堀家 啓男

軍需の街 枚方

戦前、交野ヶ原の中・南部には陸軍の軍需工場が三方所ありました。なんと、枚方は大軍需都市だったのです。三工場は、太平洋戦争敗戦の日まで、米軍の空爆を免れ、砲弾や弾薬を製造、格納して戦地に送り出していました。軍需工場のうち「禁野火薬庫」が最も古く、敗戦までの51年間存在しました。その間、2回の大爆発を起こし、特に

2回目の大爆発は昭和14年（1939年）3月1日のもので、周辺地域に大きな被害をもたらし、住民を恐怖に陥れました。

遭難者の過酷な状況は、「禁野火薬庫爆発遭難手記（令和元年 枚方市教育委員会 以下「遭難手記」という）」に詳しく記されています。

筆者が枚方第一中学校生時代（1956年頃）、高台にある校舎（渚東町）から見える田に大きな丸い池があり、

爆弾池と呼んでいました。飛散した砲弾が破裂した痕跡といわれていました。同級生のお父さんが阪大の教授で、軍需工場の建物が阪大工学部の仮学舎となり、軍需工場の社宅跡に家族で住んでいたのを覚えています。戦後、国家公務員宿舎になった後も、火薬庫の給水施設が残り、保存の是非について論争がありました。

枚方市は大爆発の「3月1日」を「平和の日」と定めて

います。最近まで、禁野などの軍需工場跡の道路端に「陸軍省用地」と刻まれた境界石が残り、住民に強い威圧感を与えていました。筆者は、関西外大中宮キャンパスの短期大学の入口近くの小川に2メートルばかりの境界石が投げ込まれ、無用の長物のように放置されていたのを市に通報し、保存手続きをお願いしたことがあります。まだまだ軍需の街、枚方の戦後が続いていたのです。

なぜ禁野に火薬庫が

明治24年（1894年）、日清戦争が勃発すると、陸軍は軍備拡張の一環として禁野火薬庫（禁野本町1〜2丁目ノ跡地には市立ひらかた病院など）を設置します。大阪砲兵工廠（明治2年、大坂城址東に誕生）と新設の宇治火薬

製造所(宇治市五ヶ庄)を淀川の舟運でつなぐ中流沿い、交野ヶ原の一角に適地を求めたのです。

人家が少なく、安く広大な用地確保ができる、水害の心配がなく、淀川を利用すれば、丘陵下で弾薬類を運ぶ船を着岸させる浜を造れるなどの利点からこの丘陵地が選ばれたのです。

現に崖下に、黒田川と支流禁野川を利用し、火薬庫のすぐ下まで船が入れる水路と船着き場が造られました。

火薬庫は明治28年(1895年)に着工、同29年(1896年)10月竣工し、同30年(1897年)2月には火薬を格納しました。

かつて平安の貴人が鷹狩をした雅の地、交野ヶ原の一角「禁野」は、軍需施設の地に変貌したのです。

禁野火薬庫の表門(石の柱があった)付近。現在の枚方市保健センターの南。



さらに昭和8年(1933年)には大規模な用地買収、施設拡張を開始します。現在は、用地買収ができれば事業の90パーセントが完了といわれる時代ですが、この買収は6万3千坪を僅か10日間で終えています。(枚方市発行の「朝日新聞記事集成第八巻」)陸軍の威光を推し量ることが

できます。

昭和11年(1936年)秋には、片町線津田駅からの引き込み線が火薬庫内まで敷設され、鉄道輸送の便が図られました。この軌道跡の一部は道路(通称「中宮平和ロード」)になっています。



火薬庫は、正式には砲兵第二方面本署所管の禁野火薬庫といい、後に大阪陸軍兵器支

廠禁野弾薬庫、同禁野倉庫、終戦時は大阪陸軍兵器補給廠枚方分廠と改称しました。

枚方製造所 香里製造所

昭和12年(1937年)7月、日中戦争が始まると、禁野火薬庫の隣接地に陸軍造兵廠大阪工廠枚方製造所(中宮、片鉾、甲斐田/跡地には関西外大中宮キャンパス、小松製作所など)が建設され、翌年1月には、砲弾、爆弾、信管などの兵器製造を開始します。最盛期には従業員3万人、日本最大の砲弾製造所になりました。同16年(1946年)頃には、枚方市駅(枚方東口)と片町線長尾駅を結ぶ通勤者の新線計画があったそうです。

さらに同12年(1937年)

12月、陸軍は宇治火薬製造所の新工場を計画、その用地を、
 中振の丘陵地に求めました。
 新工場は同14年(1939年)7月、香里製造所として開所しました。



香里製造所の遺構、天を衝くボイラー用の煙突。現在の妙見配水池敷地内

12月には黄色圧搾工場として火薬製造を始めます。同16年(1941年)9月、片町線星田駅から「香里側線」を敷設。軌道敷跡は現在道路

となつています。同17年3月には、東京第二陸軍造兵廠香里製造所として独立します。140ヘクタールの敷地に230棟の建物を擁しました。軍国日本の拡大とともに、交野ヶ原に禁野火薬庫を加え、兵器を造る枚方製造所、香里製造所の広大な陸軍施設が広がり、周辺には病院や工員用社宅ができ、町民は従業員として雇用され、枚方はまさに軍需の街と化しました。

戦後、軍需工場跡が住宅地化され、東洋一といわれた香里団地が誕生したとき、けやき通りの枚方市役所支所は軍需工場時代の建物の再利用でした。(現在は建て替え済み)

8月20日午前2時過ぎ、禁野火薬庫第二倉庫が爆発、続いて第一倉庫が延焼爆発しました。火薬業者に売り渡す鉱山用ダイナマイトが、連日の暑さに自然発火し、隣接の第一倉庫保管の黒色火薬の誘爆を招いたのです。警備の兵7人が負傷しました。

日露戦争(明治37年〜38年)後の明治42年(1909

明治42年の爆発

府選出の政友会代議士菊池

旧、拡張されます。

侃二(かんじ)が同僚の植場平代議士と調査し、政友会本部に提出した「調査報告書(明治42年9月11日)」が枚方市発行の「禁野火薬庫資料集(以下『資料集』という)」に残っています。

現地調査や陸軍幹部から聴取した内容で、住民のため、地元のため、軍需工場の移転要望や、再発防止に努力した政治家がいたのです。

昭和14年大爆発

昭和14年の火薬庫大爆発は、日中戦争が激化する「昭和14年3月1日」に起こりました。火薬庫爆発という重大事故が繰り返えされたのです。敗戦直後、軍によって重要書類が焼却されたらしく、原因などの詳細は不明とされてき

ました。だが昭和60年(1985年)の夏、偶然にも禁野火薬庫関係の書類が出てきたのです。

「禁野倉庫災害事故 総合報告」 発見秘話

市職員であった筆者は昭和60年4月、枚方図書館から枚方市民病院事務局に異動しました。赤字再建の目的で病院駐車場の拡張計画が持ち上がり、隣接する禁野火薬庫跡の国有地を買収することになりました。

同年夏にかけて、近畿財務局に足しげく通い、国有地払い下げの話がやっと軌道に乗った頃、財務局の職員から、「実はあの土地に賃貸住宅が1軒ある。その住人と立ち退きの話をつけてほしい」と依頼されました。官有無番地の

普通財産の国有地に、なぜ賃貸住宅があるのか不思議でしたが、とりあえず住宅を訪問しました。

訪れた住宅は「資料集」の「火薬庫跡図」を見ると、旧火薬庫表門や衛兵所に近い場所にある官舎の一つと思われました。上品な女性が住まわれ、戦前から住んでいるとのこと、なんと最後の枚方分廠長豊田環氏(分廠長代理就任は昭和18年3月)の夫人でした。

用地買収の事情を説明すると、すぐにご理解いただき、引越先として、手ごろな住宅を探してもらえば協力するとの返事をいただきました。早速その手配をし、引越しを予定してもらえるまでに至りました。

最終の話に伺った時、「堀家さん、実はどうしたらよいか

困っている書類があります。役にたたないならこの際処分したい」とのことで、奥の部屋の書棚に案内されました。数十センチほどの厚さに綴じられた書類で、亡くなられた豊田氏が大切に保存されていたとのこと。拝見してすぐに火薬庫関係の貴重な書類であることがわかりました。

広報課にいたことがあり、大爆発の経過や原因がはつきりしていないことを知っていましたので、同意を得て市史編纂室に連絡しました。すぐに市史の関係者が来てくれることになりました。これが枚方市発行の「資料集」発見の経緯です。

資料集の巻頭、「刊行にあたって」には、「昭和60年、禁野火薬庫関係の書類が出てきました」とあっさり書かれています。しかし、筆者が国

有地払い下げの担当者として豊田さんに会ってなければ、書類は日の目を見なかったかも知れません。市職員時代の懐かしい仕事の一つです。

「資料集」によると、軍の用地買収が一方的であったと思ったのは、境界がすべて丘陵の崖地下ではなく、上になつていたことです。このあたりの地質は崩れやすく、市の誠意として、病院側となつた境界沿いに鋼板を打ち込み、崩落予防を行いました。

信管から引火爆発

発見された書類は奇しくも大爆発から50周年に当たる平成元年(1989年)に「資料集」として刊行されました。その中に、「昭和十四年八月十四日 禁野倉庫災害事故総合報告 大阪陸軍兵器支廠」が

あります。陸軍兵器支廠が大爆発の5か月後に公表したものです。要約すると次のようになっています。

発生場所——禁野倉庫第15号未填薬弾丸庫

被害場所——禁野倉庫全部、隣接の枚方製造所建物の一部、枚方町禁野、中宮地域の大部、天ノ川の民家約半数を焼失、爆風及び弾薬破片の飛散は禁野倉庫を中心とする半径2キロの地域に及び、人畜並びに建物に大小の損害

発生前の状況——事変用弾薬、新設師団装備用、内外演習用弾薬の調整で、業務幅湊し毎日、約450名の人員、しかも同年2月から、上海より還送の旧弾を流用するよう指示があり、15号未填薬弾庫で環送弾

の信管離脱作業を行う。当日も同作業中

発火火災拡大並びに鎮火

午後2時45分、還送弾

薬の信管より引火爆発、不完全爆発で、炸薬が倉庫(木造)内に飛散し倉庫火災となる。午後午後3時20分

小爆発。爆音を聞き各所から、消防、警察、製造所職

工らが駆けつけ消火に駆けつけ消火に当たる。午後3

時29分、同倉庫北に格納(格納箱が木製)の填薬弾

が一時に大爆発、消火に当たっていた多数が即死又は

重傷。この大爆発で赤熱の弾丸破片が飛散、他の建物

に飛び火、爆発延焼となる。強風のため飛び火、累次の

爆発延焼、この状況、3日にわたる。禁野倉庫の60

0m以内に近づけず、支廠

長以下、職員、軍、警察、消防隊が待機となる。3日、正午頃、弾薬の炸裂ようやく終息し、消火。4日、すべて鎮火。

報道管制が敷かれ、住民らは、砲弾の爆発音と砲弾や破片の飛散に恐怖し、逃げまどい、黒煙が上がる2日の新聞写真で事実を想像するだけだったようです。

復旧へ廃弾処理

「資料集」によれば、陸軍兵器本廠は、3月9日には「復旧作業に関する事項」を定め、方針を策定します。危険物の除去などを行った後、すぐにも復旧を期していたのです。そのうちの「廃弾処理」が、同年5月中旬に行われました。信管除去が困難な廃弾を、大

阪湾から外洋へ運搬し、海に沈めるという作業です。これらに関する運搬経路図が「資料集」に掲載されています。要約すると次のようになっています。

禁野火薬庫の鉄道(引き込み線)門からリヤカーで廃弾を運び出す。(現在の杉、田口、禁野線)は、振動を防ぐため道路上に砂を敷き、ローラーで圧をかけた上を運ぶ。途中、南方向へ幅員2メートルの道を作り、簡易舗装し、天野川堤防上に至る。堤防の一部を削り陸橋をかけ、天野川底を、オート三輪が走行可能ないように整地し、淀川まで運ぶ。川船に積み替え、引き船で運ぶ。毛馬閘門を経て、大川を下り、大阪港まで出る。紀伊水道沖まで運

び、水深60メートルに沈める。

慎重を期する必要がある、1週間がかりであったようです。この「廃弾処理」については「遭難手記」に記載され、枚方町大字枚方在住の元新聞記者、地方紙創業者小野清彦氏が、爆発2日後から記載、自らや家族の避難などに関する生命がけの記録の中の「爆声人語」で触れています。要約すると次のようになっています。

大爆発の後のある日、午後3時頃、「ドカン」という爆音1発が響き渡った。再びの大爆発かと町民は震え上がったというが、実はこれは廃弾処理の方法を決めるため、軍が試験的に淀川で行ったものだったそうである。

この結果、爆破処理は町民に不安を与えるということ、で、廃弾の海没方法が採用、厳戒の中、海への搬送のため、周辺住民は3日間外出禁止、児童は校庭に出ることが禁止だったそうだ。

被害は広範囲

大爆発の破片の飛散、爆風被害は、禁野火薬庫を中心に半径2キロ、中宮、田ノ口、甲斐田、池ノ宮、枚方、御殿山、牧野、天ノ川、禁野、村野、山ノ上、渚、小倉、片鉾、磯島、犬田招提、坂、大塚(高槻)、茨木にまで及びました。住民12名を含む死者94名、負傷者602名、家屋の全半壊焼821戸、被災世帯4425世帯であったといわれています。

います。

大爆発後、禁野火薬庫は敷地の3分の2を枚方製造所に譲渡、残りは未填弾丸庫と薬きょう類の倉庫だけ再建され、火薬庫、火工場、填弾庫は祝園に移転しました。



枚方製造所の土塁跡

中宮第三団地

危機管理の欠如

明治の火薬庫爆発の経験が生かされず、木造倉庫、木製

格納箱などが引き続き使用されてきたこと。一回目の爆発後、誘爆による二次被害防止のため、従業員を避難させなければならぬのに、消防隊などを現場に向かわせるなど、危機管理や生命尊重に欠ける姿勢が火薬庫管理の実態でした。

さらに業務の繁忙、不慣れ業務を発火理由とするなど、原因の解明を軽視し、混乱を早く納めようとする姿勢が見え見えます。さらに火薬庫の爆発を「陸軍禁野倉庫災害」と報道規制し、被害の矮小化を図るなど、これらはその後の日本陸軍の暴走を想起させます。

豊田分廠長が、後日の事実究明のためにと考えられたのでしよいか、貴重な資料を残していたことで、これらの経緯が判明できたのです。

枚方行幸史

小倉東町 平良 一郎

「行幸」とは、天皇が外出することです。どんな天皇が枚方に行幸したのでしょうか。ただし本稿では行幸、巡幸、立寄り、居住、その他を含めて、天皇が枚方に来たことだけをたどってみました。

継体天皇

継体天皇は、厳密には枚方に行幸していません。枚方を都として、そこに住んでいたのです。

樟葉宮（枚方市楠葉丘2丁目）のことで507年2月4

日に即位してから、511年10月に都を山背の筒城宮（京都府京田辺市多々羅都谷）に遷るまでの5年近くを枚方の地で過ごしました。枚方での天皇滞在の最長記録です。



継体天樟葉宮地の碑

光仁天皇

光仁天皇は、宝龜2年（711年）2月13日に交野ヶ原

（交野台地、枚方丘陵・天野川・淀川沿岸の一带）に行幸しています。翌日には難波宮に向かっています。

桓武天皇

枚方行幸の最多記録は、桓武天皇です。16回の行幸がありました。桓武天皇の行幸は、狩猟、郊祀（こうし／天地を祀る儀式）が主な目的でした。

狩猟は交野ヶ原での鷹狩りでした。また中国の影響を受けた桓武天皇の漢風化路線の一環として、延暦4年（78

5年）11月10日と同6年11月5日に、長岡京の南郊にあたる河内国交野郡柏原（枚方市片鉾本町）で郊祀が行われたようです。また桓武天皇の実父である光仁天皇を併せて祀っています。

頓宮（宿泊先）は藤原繼縄別邸（枚方市南楠葉）と百済王敬福邸（枚方市中宮西之町）の2か所です。

文徳天皇

文徳天皇の斉衡3年（856年）11月22日から翌日にかけて、同じく交野柏原で郊祀が行われています。これは「文徳実録」に載っている記述ですが、詳細は分かりません。

嵯峨天皇

「類聚国史」によりますと、嵯峨天皇は、弘仁5年（81

4年)に交野に行幸して渚院(枚方市渚本町)に宿泊しました。



また、百濟寺(枚方市中宮西之町)、粟倉寺(枚方市小倉町)、佐為寺(吹田市佐井寺)の三寺に寄進しています。

明治天皇

明治天皇は、慶応4年(1868年)3月に大阪行幸を断行しました。行幸は、鳥羽・伏見の戦いで敗走した旧幕府軍を親征することが名目です。京都御所を出発した一行は石清水八幡宮で宿泊し、3月22日には枚方で昼食を摂り、休憩しました。その場所が枚

方宿本陣(枚方市三矢町)です。この本陣跡は現在三矢公園となり、「東海道枚方宿本陣跡」の石碑が本会(宿場町枚方を考える会)によって建立されています。



三矢公園
(枚方宿本陣跡)



枚方宿本陣跡碑

また公園の入口には、「明治天皇御晝餐所(めいじてんのうごちゅうさんしょ)」の碑が

あります。厳密には行幸ではなく、立寄りです。



大正天皇

大正3年(1914年)11月に大阪で行われた陸軍特別大演習には、大正天皇が行幸して観覧しました。



大正天皇

当時、富国強兵策を推進していた政府は、総勢10万人といわれる巨大な模擬戦争を枚方・交野一帯で行ったのです。大正天皇が演習を観覧した場所は「御野立所」と呼ばれて、その付近には「関武駐蹕記念碑」と「大正天皇行幸記念碑」があります。



関武駐蹕記念碑

大正天皇の行幸以来、百年以上の間、昭和、平成、令和の時代とも枚方には行幸はありません。

2024年の大阪万博の際には、大阪への行幸の可能性はあるかもしれませんが、枚方にはどうでしょうね。

近郊の史跡を歩く会 寝屋川市の史跡を訪ねる

三 栗 石川 勲

昨秋、「近郊の史跡を歩く会」と題し、石清水八幡宮など東高野街道に沿った八幡市の寺社を訪ねたのに続き、今春は5月22日に寝屋川市の史跡を訪ねました。会員など21人がJR片町線の寝屋川公園駅東口に集合し、説明役をお願いした濱田幸司さんの案内により出発しました。



寝屋川公園駅東口

最初に訪れたのは寝屋川市打上元町13の1にある「四ツ辻」

四ツ辻

「辻」です。駅から徒歩で数分のところにあります。四辻とは十字路のことで、枚方市にもある地名です。ここの四辻は、東高野街道（注）と奈良伊勢道との交差点です。

東高野街道
高野山への参詣道の一つ、八幡市（石清水八幡宮）で京街道と別れ、枚方市などを経て河内長野市で西高野街道と合流します。

交差点ですから道しるべ、いわゆる道標があります。安政4年（1857年）に打上村の酒屋勘兵衛が両親の供養のために建てたものです。



弘法井戸

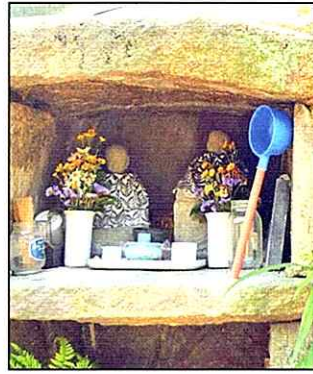
四ツ辻から東高野街道を200m余り進むと弘法井戸（こうぼういど）があります。弘法井戸と呼ばれている井戸は全国にあり、寝屋川市内には四カ所もあります。見学したのは打上元町11の9にある井戸です。



濱田幸司さん

井戸の上部に平石を組み合わせた祠があり、中に二体の弘法大師像が祀られています。

当初は一体だったと思われるかもしれませんが、別の場所で祀られていた像と一緒にされたと考えられています。



日照りが続いていても潤れることはなかったと言ひ伝えられ高野山に向かう人々の口も潤したのでしよう。なお、市内の弘法井戸のうち、現在も水が湧き出ているのは、郡元町の「湯屋が谷井戸」だけです。

明光寺 (十三仏板碑)

打上元町31の6にある浄土宗のお寺です。市の指定文化財が二点ありますが、雷神

石は劣化を防ぐため、小屋に収められています。拝見できますが、前面はガラス付きの格子戸で閉じられており、本体の撮影が困難なため、本稿では省略します。

もう一体の市指定文化財は山門を入った右側にあります。寝屋川市内では最も古い十三仏板碑(じゅうさんぶついたび)で、高さ120cm、幅65cm、厚さ28cmの花崗岩製の舟形光背碑です。



十三仏とは、初七日から十三日回忌に至る13回の供養をつかさどる仏で、亡くなっ

た人の冥福や追善だけでなく、生きている自分自身の法要を生前に行く「逆修(ぎやくしゅう)」もあります。

十三仏信仰は室町時代に始まったとされ、明光寺の十三仏板碑の下部には19人の名前と「逆修 弘治三年」と刻まれている。逆修の際に建てられたと思われる。なお、枚方市尊延寺5丁目の来雲寺にも十三仏板碑があります。

打上神社

打上元町38の1にある神社で、主祭神は武内宿禰(たけのうちのすくね)です。

詳細な由来は不明で、明治初期に「打上神社」と改名しています。しかし、地元の人々には江戸時代以前の旧名「高良神社(こうらじんじや)」の方が親しまれているようで、

鳥居の扁額や社号標は高良神社のままです。



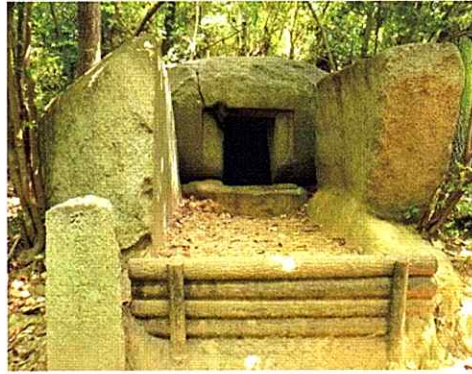
石宝殿古墳

石宝殿古墳(いしのほうでんこふん)は、打上神社の裏山にある古墳時代末期(7世紀中頃)の古墳で、昭和48年に国の史跡に指定されました。埋葬施設は横口式石槨(石棺式石室)で、北河内では唯一の古墳といわれています。

石槨は、花崗岩の巨石を2枚組み合わせたもので、蓋石

石宝殿古墳を見学すると、集合地の寝屋川公園駅に戻りました。駅前ロータリーの南側、寝屋川東ファミリータウン中1番館1階にある資料館を見学するためです。昭和56年に開設した文化財の展示施

埋蔵文化財資料館



は横口部をくり抜き、底石は平らに加工したもので南北3m、厚さ10cmに及んでいます。

なお、「近郊の史跡を歩く会」は、ここで一次解散、健脚で歩き足りない方は、引き続き太秦高塚古墳へ足を延ばされました。



設で、昨年、開館40周年を迎えました。北河内地域では最初に設置され、市内で発掘された土器や石器などを展示しています。入場料は無料であり、資料館では買い物帰りのついでに来館し、地域の歴史や民俗に触れてほしいと願っています。

新会員紹介

- 東野 利明さん 城東区
- 谷崎 裕子さん 杉山手
- 大西 英利さん 東大阪市
- 白木 毅さん 香里新町
- 友岡 修さん 津田元町
- 森田 郁子さん 牧野阪

機関誌の文責について

本誌「宿場町ひらかた」の文章のうち、著者名のあるものは、投稿された原文をもとに編集しています。編集の都合上、少し原文と異なる部分もあります。変更後も著者の確認を得ており、文責は寄稿者にあります。ご了承ください。

ホームページを開設しました

本会をよりご理解、ご賛同をいただくため、事業内容、入会案内などを掲載しています。

HP <https://syukubamachi-hirakata.com>

宿場町枚方を考える会



検索してね!

